

成田山の講社の数と変化

1805（文化2）年の「講中記」に記された414講は、江戸に322、千住宿などの在町に92講が分布していた。特に江戸に講社が多いのは、江戸で開帳が行われたこと、市川團十郎家による「不動利生記」の上演により成田山の名が宣伝されたことと、江戸から新勝寺まで3泊4日で参詣できる距離にあった為である。成田山講社の歴史は長く、最も古いもので1688年（元禄元年）設立の記録が残っています。成田講は19世紀前半にかけて急増しその分布域は嘉永期には武蔵、甲斐、安房、上総、下総、常陸、下野、上野、遠江、伊豆、信濃まで広まったという。講社の分布域が広域化する一方で、内陣五講、内陣十六講、浅草十講などの特に新勝寺とのつながりの強い講も存在した。

現在も講名の最初、または最後に、内陣五講、内陣十六講、龍王講、資堂講などが付く講社は、江戸時代に結成された講社です。

こうした講社が存在する深川（東京）や川越には成田山の別院が置かれ、成田へは代参で訪れた。成田講は近代まで増加傾向にあったが、とくに1970年代以降は減少傾向にあるという。

成田山講社・奉賛会名簿と新勝寺提供資料による1972年と2009年の都道府県別成田山講社数は、1972年の講社は代参講を含め**2,935**講である。東京都は最も講社数が多く858講（うち代参16）で、全体の29.2%を占める。次いで福島県487（16.6%、うち代参412）、埼玉県367（12.5%、うち代参100）、千葉県317（10.8%、うち代参50）、神奈川県163（5.6%、うち代参3）、茨城県138（4.7%、うち代参18）と続く

2009年は1972年と同様の分布傾向が見られる。講社数は代参講および奉賛会を含め**1,441**講である。講社数は多い順に、東京都389（27.0%、うち代参3、奉賛会20）、埼玉県195（13.5%、うち代参0、奉賛会1）、福島県186（12.9%、うち代参136、奉賛会7）、千葉県149（10.3%、うち代参9、奉賛会22）、神奈川県91（6.3%、うち代参1、奉賛会2）となる。

関東地方と福島県の講社の合計は、1972年で全体の79.4%、2009年で70.1%を占め、成田山の講社が東京をはじめとした関東周辺に多い事が分かる。

一方で、東京の講が戦時中に疎開し、疎開先で根付くことがあるという。福島に多い理由に、戦時中の疎開によるものが考えられる。

講の形態には以下の7種類がある

地域住民の集まり、	会社の社員による集まり、
会社とその関連会社を含む集まり、	取引関係（傘下を含む）にある会社の集まり、
同じ業種同士の集まり、	先達の檀家、
選挙の後援会組織である。	

成田山の講社に登録されるための条件として、①先達と講元がいること、②年1度の大護摩を行うこと、③講員で登山すること、④講員名簿を作成すること。以上であるが、現在では先達が存在しない講もある。先達が存在しない場合でも、講元が世襲である場合は講が存続する。

1972年から2009年の37年の間に講社数は約半数となったが、講が廃止された時期は把握し難い。

講社数が減少した原因には

道の開業によって個人での参拝が容易になったこと、	
先達の断絶、	地域内でのまとまりの希薄化、
講元の高齢化と若年層の不足、	門前町の旅館に駐車場が少ないことなどがある。

また、講社数の減少とともに講員も減少しており、現在講員数は平均して50人程度であるという。一方で地域の有力者を中心として新たに結成される講もあり、近世から近代にかけて組織された講社とは性格が変化しつつあるといえる。（2010年 地域研究年報より）